



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

広島県 福山市立鞆の浦学園



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：山田 沙知子 先生 (水泳/競泳)【出場オリンピック/シドニー大会、アテネ大会】

■期 日：2022年9月13日(火)

■ク ラ ス：8学年/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



- 水泳/競泳の自由形800mで出場したと自己紹介。800mは、25mのプールを32回泳ぐことだと説明する。オリンピックバリューの3つの言葉を紹介し、運動の時間では、失敗しても、どうすれば改善できるかを考えながら取り組もうと授業の目的を伝える。
- 準備体操後、「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。広げた新聞紙の上に立ち、じゃんけんに負けたら、半分に折る。1回目は、新聞紙から降りて折る。2回目は、新聞紙に乗ったまま折るルールに変更。

○主運動等



- 主運動は、「新聞ボール運びリレー」を実施(全3回)。2人組で新聞紙にバレーボールを載せて運び、コーンで折り返して戻り、次のペアにボールを渡す。3班対抗とし、着順にポイントを付け競う。途中作戦タイムを設け、新聞の持ち方や、ボールの渡し方、走順等について意見を出し合った。3回目は使用するボールを、バレーボールからバスケットボールに替え難易度を上げる。また、生徒からの提案で着順のポイントを変更したことで、どの班にも勝ちチャンスがあった。



- 運動の時間を振り返り、オリンピックバリューの3つの価値であるエクセレンス、フレンドシップ、リスペクトについて意識できていた。リレーはチームメイトがいることで成り立つので、新聞紙を破らないようにするために互いにどのように持つべきか、ボールパスの際は、どのようにするとボールを落とさないか等、相手のことを考える機会になったと思う。皆が作戦タイムで意見を出し合ったことを実践し、工夫できていた。途中で転んでしまった人もゴールまで全力で取り組んでいた。座学の時間は、運動の時間に感じたことを振り返りながら、オリンピックバリューについて深く考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 山田 沙知子 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/シドニー大会、アテネ大会】

■ **期 日** : 2022年9月13日(火)

■ **ク ラ ス** : 8学年/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



●全員にオリンピックシンボルを描いてもらった後、5つの輪は5大陸を表しており、下地の白を合わせた6色で世界の国旗のほとんどを描くことができると説明。3歳で水泳を始め、小学生の時に初めてオリンピックをテレビ観戦したとき、両親から世界頂点のスポーツ大会だと教わり、出場を目指すきっかけとなった。大学4年生で出場したアテネ大会で予選落ちとなり、競技を続けるかどうか悩んだと話す。しかし、後悔したくないという思いからアメリカに渡り競技を続けることを決意し、家族は迷わず応援してくれた。自分が一番どうしたいのかという気持ちを知ることが大事だと分かったと伝える。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間を振り返り、1回目より2回目、2回目より3回目の結果を良くするために何をどのように変え、工夫したか意見を出し合おう。
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
 エクセレンス：「走り方を変えた」「走順を変えた」「新聞紙の持ち方を変えた」「最後まで走った」等
 フレンドシップ：「ボールを優しくパスするよう心掛けた」「ペアの中で新聞紙を先に離す人を事前に決めた」等
 リスペクト：「声を掛け合った」「新聞紙を新しくした」「ルールを守る」等



●オリンピックバリューの3つの価値は、日常の出来事に置き換えて考えることができる。大切なことは、まず自分は何がしたいのか、そのためにはどのような努力が必要かを考えてみる。嫌いなことについても、すぐ投げ出すのではなく、良い面についても発見し、挑戦してみることで、自分の可能性を増やすことができる。目標達成までの道のりの中で、ルールを意識したり、仲間に相談することもあると思うので、これからも友達や周囲の人を大切に、自分の目標に向かって頑張してほしい。いつか、皆から良い報告を聞きたいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・8学年



■ 記念品贈呈

・8学年



■ 修了証贈呈



**公益財団法人 日本オリンピック委員会
オリンピック・ムーブメント推進部**

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
Japan Sport Olympic Square
TEL : 03-6910-5950 (代表)

JOCオリンピック教室運営事務局

〒104-0042 東京都中央区入船1-3-9 長崎ビル2F
株式会社AROUND内
TEL : 03-6228-3533 FAX : 03-3206-1374